

くろいしけんたろう 黒石健太郎 新市長が就任



6月1日の瀬戸内市長選挙で初当選した黒石健太郎新市長が6月16日、瀬戸内市役所本庁舎に初登庁しました。市職員らに拍手で迎えられ、歓迎の花束を受け取りました。

その後の就任式では、「皆さんからの情報や声、瀬戸内市のこれまでの背景を勉強させていただきながら、対話・議論を通じて次のステージに進んだ瀬戸内市を生み出していきたい。『チーム瀬戸内』で職員一丸となり頑張りましょう」と職員へ呼びかけました。

黒石市長プロフィール

生年月日 昭和59年1月3日（41歳）

【主な経歴】

平成18年3月 東京大学法学部 政治コース卒業

平成18年4月～平成25年6月 株式会社リクルート勤務

平成25年6月～令和6年12月 株式会社ウィルフ代表取締役社長

平成30年9月～令和2年 国立大学法人 金沢大学特任准教授

令和4年2月 株式会社ハワーズ設立、代表取締役社長就任

令和7年1～5月 衆議院議員 公設政策担当秘書

令和7年6月 瀬戸内市長就任

【趣味】 畑、バレーボール、ヨット、釣り



市長所信表明

瀬戸内市を次のステージへ

この度、市民の皆さんからの信託を得ることができ、市政を担わせていただくことになりました。瀬戸内市長という重責に身の引き締まる思いです。

市長就任にあたり、私の所信を述べさせていただきます。今回の市長選挙では、選挙期間中に市民の皆さんからさまざまな意見や要望をお伺いすることができました。

人口減少、少子高齢化が進む地域からは、農漁業の後継者不足や伝統文化の継承がで

きなくなっているという課題、さらには公共交通の充実を望む声が多く聞かれました。また、都市化が進むJR駅周辺では、交通渋滞の解消や子育て・教育環境の充実などを求める声が多く寄せられました。

こうした市民の皆さんの意見や要望を実現していくためには、現在策定を進めている都市計画の中で、瀬戸内市の将来像をしっかりと描いていくことが必要であると考えています。

私は、武久市政を引き継ぐとともに、瀬戸内市を次のステージに押し上げることを約束します。市民の皆さんの健康やかな暮らしの実現と瀬戸内市の発展のため、全力を尽くして取り組んでまいりますので、ご支援とご協力をよろしくお願いします。

■子育て・教育支援

出産祝い金、不妊治療助成の拡充や新設、学校給食費の完全無償化を目指すとともに、経済的な理由で学校外教育を受けられない子どもに対し、習い事などを利用す

る機会を与える「学校外パウチャー」制度の導入を検討します。

■産業振興・後継者の確保

トップセールスによる企業誘致の推進、地域ビジネス支援センターを核としての創業支援や新産業創出の推進に取り組むことで税収の確保につなげるとともに、農漁業の高付加価値化や販路拡大に取り組み、後継者の確保に努めます。

■交流人口、関係人口の拡大に向けて

備前長船刀剣博物館を拠点に刀剣文化の伝承を図るとともに、体験型の観光コンテンツの開発により国内外の来訪者の増加を推進します。さらには、ふるさと納税についても、事業者との協働により、寄附額の更なる増加に取り組むことで、独自財源の

確保だけでなく、本市を応援していただける人の拡大を図ります。

■高齢者・障がい者支援

高齢者の皆さんには、住み慣れた地域で健康で生きがいを持った生活を送っていただくために、認知症やフレイルのリスクの軽減に資する施策を進めるとともに、これまで以上に利用しやすい公共交通の整備について検討します。

また、障がい者やその家族への支援としては、就労支援の推進や、きめ細かなサービスの拡充を図ります。

■安全安心のまちづくり

防災・減災対策として、「瀬戸内市国土強靱化地域計画」の取り組みを推進するとともに、実働性のある自主防災組織の育成に努め、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害に備えます。

